

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価計画

学校名	多久市立東原庫舎西溪校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 前年度重点項目については、全体的に概ね目標を達成することができたが、学力の定着と向上に課題がある。「あくしゅタイム(話し合い活動)」に継続して取り組み、協働的な学びを推進していきたい。 特別支援教育に関する専門性が向上したと回答した職員は90%以上であったが、支援を必要としている児童生徒の割合は高いため、さらなる支援体制の構築と支援の充実を目指す。 道徳を中心として「望ましい生活習慣の形成」に取り組んだが、明るく気持ちよい挨拶ができていたとは言えなかった。今年度は、多久学や論語教育を推進していく中で、明るく元気で気持ちよい挨拶ができるようになってほしい。 学校・家庭・地域の連携をさらに推進し、児童生徒を中核とした教育活動に取り組んでいく。 ライフワークバランスを意識した働き方ができたと回答した職員は、目標の90%を達成できなかったが、時間外在校時間は減少してきた。昨年度の取り組みを見直しながら継続徹底していく。
2 学校教育目標	「ふるさとに学び、志をもち、共に高め合う西溪っ子」の育成
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ①「あくしゅタイム」(話し合い活動)の推進とICTを活用した授業実践。 ②特別支援コーディネーターを中心とした支援体制の構築と個別の支援計画を活用した支援の充実。 ③総合的学習の時間及び道徳科を中心とした多久学・論語教育の推進。 ④学校・家庭・地域と連携した各種活動の推進。

4 重点取組内容・成果指標				中間評価	主な担当者
(1)共通評価項目				中間評価 進捗度 (評価)	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組		
●学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○主体的・対話的で深い学びを意識した授業実践 ○学習規律の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ○「あくしゅタイム」(わらいに迫る交流の場)で、考えを広げたり深めたりすることができたと回答した児童生徒90%以上 ○授業の始まりで、立腰、学習用具の準備など学習に向かう心構えができたと回答する児童生徒85%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・全教師が明確な意図を持って「あくしゅタイム」を設定し、その目的と評価を児童生徒に明示することで、「あくしゅタイム」の意義を児童生徒が感じ、意欲をもって実践していくようにする。 ・学習部とも連携し、全職員が同じ指導を行うことで学習規律を徹底させる。 		校内研究主任 学力向上コーディネーター 全職員
●心の教育	<ul style="list-style-type: none"> ●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 ●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実 ●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ふれあい道徳参観での感想や学校評価アンケートで「学校は豊かな心の教育に積極的に取り組んでいる」と回答した保護者が95%以上 ○いじめ防止等について、組織的対応ができていたと回答した教員が100% ●「赤生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒85%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」と肯定的な回答をした児童生徒80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育に全ての教育活動を通して取り組む。特に、道徳科の授業において、「考え議論する道徳」を実践し、児童生徒の道徳性の涵養を目指す。家庭、地域と連携して道徳教育に取り組む。 ・月に1回生活調査(あくしゅ)アンケートを行い、いじめの早期発見に取り組む。 ・生徒指導協議会において、全職員で共通理解を図り、開発的・予防的な生徒指導を行う。 ・体育大会や文化発表会をはじめとする行事や各学年で行う体験活動を通して、児童生徒の自主性、自発性を育ていく。 ・二分の一成人式や立志式などの節目の行事では、将来への見通しをもたせる機会を設け、夢や目標を明確にさせる。 		道徳推進教員 人権同和教育担当 生徒指導部 特別活動部
●健康・体づくり	<ul style="list-style-type: none"> ●「望ましい生活習慣の形成」 ○安全に関する資質・能力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ●元気のよい挨拶ができていたと回答した児童生徒80%以上 ●早寝・早起き・朝ごはんの望ましい生活習慣ができていたと回答した児童生徒80%以上 ○児童生徒や教員の交通事故、生活事故の発生件数0(ゼロ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・西溪会(児童生徒会)を中心に、相手を意識した主体的挨拶を推進する。 ・学級活動や保健だよりの発行等で児童生徒への啓発活動を行う。 ・集団登校を月1回行い、その実施における登下校の安全確認に取り組む。 ・交通安全教室の実施により、歩行、自転車の扱いなどへの注意喚起を行う。 		生徒指導部 生徒指導部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	<ul style="list-style-type: none"> ●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限45時間以内の遵守 ●ライフワークバランスを意識した働き方ができたと回答する教員が90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペーパーレス会議の継続、推進。 ・会議の開始時刻、終了時刻の徹底(会議時間60分)。 ・業務に見直しを持つための定時時刻の設定と徹底。 ・定時運動日の徹底(前期金曜日、後期水曜日)。 ・電話対応時間の設定(朝:7:30から、夕:部活終了後30分迄)。 		管理職 (副校長、教頭)
●特別支援教育の充実	○教員の資質向上と支援体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> ○特別支援教育に関する専門性が向上したと回答する教員95%以上 ○組織的・機能的な研修会を年間3回以上、ケース会議や支援会議を適宜実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内特別支援教育ミニ研修会を学期に1回ずつ実施する。 ・特別支援教育コーディネーターを中心に必要に応じてケース会議を実施し、校内支援体制の充実を図る。 		特別支援コーディネーター
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価	主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	
○情報モラル教育の充実	○情報モラルに関する指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○情報モラルに対する意識が高まったと回答する児童及び保護者が80%以上 ○情報モラルに関する授業実践を年間2回以上行った職員が100% 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学期に情報モラルに関する道徳の授業を全クラスで実践する。 ・保護者と3～4年生対象に「情報モラル教室」を行う。 ・学校からの通信等で保護者に継続して啓発をする。 		教育情報化推進リーダー
○コミュニティ・スクールの推進	○学校・家庭・地域と連携した各種活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○授業などでお家の人や地域の人と一緒に学ぶ活動が行われていると回答した児童が70%以上 ○家庭・地域と連携した教育活動が行われていると回答した職員が80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・多久学を中心に「怒の心、ふるさと多久を愛する心」を育てるための授業や活動を、全クラスで計画的に単元を仕組んで実践する。 ・児童生徒が地域の人のつながりを実感し、感謝の心を持つことができるように、地域の人や保護者に学習支援ボランティアや外部講師を依頼するなど、連携した活動を推進する。 		義務教育学校教育 コーディネーター 学校運営協議会担当 (副校長)

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・
--------------------	---